



《今回のテーマ》は

「見える化」とは

お客様とお会いする時の参考情報としてご利用ください

「見える化」は、トヨタ生産方式を支える基礎的な手法として生まれ、育っています。見える化とは、物や事の状態を、誰が見ても、また、遠くからでも、すぐに一目でそれとわかる仕組みを作り上げることです。見える化は、製造や営業現場だけでなく、経営、管理、間接部門に至るまで、幅広い分野で活用されています。

1 見える化は、次のように活用されます。

- (1)経営戦略では、SWOT分析等で会社の現状を分析し長期的な「会社のあるべき姿」を求め、その実現に向けた実行計画書を作成し全員に周知徹底することにより、トップの想いを見える化する。
- (2)生産コスト・収益改善に関する改善課題・目標の実行計画等に関して、日々・週・月単位の実行計画(アクションプラン)を見える化する。
- (3)作業の質を向上させるため標準作業票をつくり、作業者の上に吊り下げ、見える化する。
- (4)在庫管理で、「発注点などを現物に差し込む」(発注点管理)などにより、何を、いつ入庫し、数量がどれだけあるか一目で見える化する。
- (5)治工具の管理維持では、いつでも最適な治工具が直ちに使用できるよう治工具の表示とメンテナンスを見える化する。

2 見える化のポイントは次のとおりです。

- (1)誰が見ても、遠くから見てもすぐにわかる。
- (2)管理したい「物、事」に、直接表示されている。
- (3)それが良いか悪いか、正常か異常か、誰でもすぐ分かる。
- (4)誰でもやさしく使え、便利である。
- (5)誰でも守れて、必要に応じて改善など、すぐに直せる。
- (6)ハッと気がついたらすぐにアクションを起こす。

外部社員や新入社員等不慣れな社員にとって生産現場はわからないことだらけです。そのため現場を「見える。わかる」作業環境に変えなければなりません。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)による見える化を徹底することが最も効果的です。

以上のとおり、見える化には、5Sの徹底、安全に楽に速く反復できる仕事の標準化と文書化ならびに目標管理の徹底が前提条件です。

取引先訪問の際には、上記の視点から経営者の話を聴いたり、工場・事務所等を見ると、また違った景色が目映ってきます。

(参考情報)

トップの想いは全員に周知されていますか	(2009-0442)
「見える化」により気付かせる	(2006-2805)
課題解決のプロセスは見える化、定量化されていますか	(2009-0445)
見える化管理とは?	(0105-0716)
「見える化」は5Sの徹底から始める	(2009-0478)
標準化を進めれば作業の質が向上する	(2009-0481)
事例5 / 在庫を見える化-発注点管理	(2007-0737)
()内は情報番号です	

皆様が、お客様から相談を受けた時、「JRS経営情報」をちょっとした参考情報として提供されればお客様から喜ばれることは必定です。

なお、お客様にコンテンツをご提供する場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。また、お探しの情報が不明な場合はご照会ください(0120-89-0240)。